

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>より良い未来を創るため、生涯学び続け、社会に貢献し、広く活躍する人材を育成する学校 学校内外での主体的な学びの中で絶えず自分の道を模索し、進化するように努め、将来を切り拓く気概と思いやりの心を持って、他者と協働しながら困難な課題を解決できる人材を育成する。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>○幅広い知識と教養、高い学力を持つ生徒の育成 ○社会の課題について当事者意識を持ち、他者と協働して課題解決に取り組む生徒の育成 ○良きリーダー、良きフォロワーとして失敗を恐れず挑戦する生徒の育成</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>○生徒の「高い志」の進路実現を支援する質の高い授業 ○他者と協働して事に当たる力を身に付け、深く考える力を伸ばす総合的な探究の時間 ○自尊感情を高め、他者との協働を軸に、実践的な生きる力を養う学校行事や部活動</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>○基本的な生活習慣と学習習慣を身に付け、十分な学力を持った人 ○目標に対し、周囲の人と協力して最後までやり通そうとする意欲がある人 ○知的好奇心が高く、様々なことに挑戦しようとする人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>全ての教育活動を通して「自分がやりたいことを自分で見つけ、やるべき事を考え、実際に行動する力」を身に付けた生徒を育成する環境づくりを推進する。日々の授業、学校行事、部活動などすべての教育活動において「主体性」「行動力」そして「思いやり」を身につけた生徒が育つ環境であるかを考え、変化することを恐れず果敢に挑戦し続ける学校経営を行う。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>昨年度は、「より良い未来を創るため、生涯学び続け、社会に貢献し、広く活躍する人材を育成する学校」のスクール・ミッションのもと、生徒に寄り添い、生徒自身が考え、主体的に行動する力の育成に努めた。その結果、文武両面において、大きな成果をあげることができた。 今年度は、更なる飛躍を果たし、県民の期待に応えるべく、変化することを恐れず果敢に挑戦し続ける学校教育を行い、「倉高ONLY ONE 計画」(「絶えず自分の道を模索し、自己実現に努め、将来を切り拓く気概と他者への思いやりの心を持つ生徒」を育てるための教育活動)の確実な遂行によって、「主体性」「行動力」「思いやり」を育てる学校教育を推進する。</p>	<p>年度重点目標</p> <p>不断の授業改善と1人1台タブレット端末を有効活用による高い学力と幅広い知識・教養の涵養</p> <p>「社会に開かれた教育課程」を実現するための探究活動の充実</p> <p>心の教育の推進による自尊感情、自己肯定感、失敗を恐れない態度、粘り強さ、たくましさの育成</p> <p>学びあい支えあう教員集団づくり</p> <p>世界に通用するグローバル人材の育成</p>	<p>具体的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に学びに向かう、質の高い授業を目指す ・生徒が基礎・基本を身に付け、考える力を高め、面白さを実感できる授業づくり ・生徒の学習改善と教員の授業改善を両輪とする評価の実践 ○個別最適な学びを実践できる教育環境を構築する ・1人1台端末を活用した個別最適な学びの推進 ・生徒の習熟度や希望進路に応じた選択制課題や選択制補習の一層の充実 ○総合的な探究の時間の充実と取組の継続 ・問いを立てる力と深く思考する力を高める指導方法の充実 ・地域社会の人的・物的資源を活用し、生徒の学習意欲を高める探究活動の充実 ○主体的に判断し、行動できる生徒の育成 ・生徒が互いに尊重し合いながら、協働して目標達成を目指していける環境づくり ・生徒に寄り添い、果敢に挑戦していくことを支援する体制の充実 ○常に学び、学びあう教員集団を目指す ・指導のノウハウを職員内で共有し、互いの教師力を高めていく組織づくり ・情熱に溢れ、互いに支え合いながら教育活動を展開する教員集団づくり ○異なる言語、異なる文化、異なる価値観を乗り越え多様性を認める態度の育成 ・インドネシア・準州との国際交流をはじめとする異文化との交流の促進 ・自国文化に対する深い理解を前提としたコミュニケーション能力の育成 	

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
<p>学習指導 (勉学)</p>	<p>授業改善の推進と 教科指導力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、進学テストの作問等を中心に教材研究に励み、教科の特性を活かして生徒の成長を促す授業を目指す。 ・研究授業、授業参観等を通し、教員間の連携のもとに授業の改善に努める。 ・1人1台端末の活用方法を共有、実践し、生徒が主体的に学習できる環境を整える。 ・個別最適な学びを推進するため、個々の生徒の状況を把握・共有し、課題の在り方を検討する。 	<p>授業アンケート</p>	
	<p>主体的・対話的で 深い学びの実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の特性に応じた「見方・考え方」を働かせることができる生徒の育成を目指す。 ・授業を軸に、生徒が自ら考え、意見を共有し合う力の育成を目指す。 ・粘り強く諸課題に取り組む姿勢を育むため、様々な教育場面において生徒の支援を行う。 ・生徒が自身の成長を振り返り、見直しを持ち課題に取り組むことができるPDCAサイクルを確立させる。 	<p>授業アンケート</p>	
<p>進路指導 (創造)</p>	<p>希望進路の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校および学力レベルに応じた指導を充実させる。面談等を通して、第1志望を諦めない粘り強さ、屈強な精神の育成を図る。 ・各期で東大5名、京大7名、九大60名、医学部医学科20名合格という目標の達成に向け、3年間を見通して支援する。 ・教員向けの外部研修の紹介と積極的参加を促すことで、職員の進路および教科指導力の向上を図る。 ・生徒の進学意欲を維持し、保護者の不安を減らすために、進学費用に関わる奨学金等の情報が確実に保護者に届く体制をつくる。 	<p>学習実態調査</p>	
	<p>探究活動の充実化と 進路ビジョンの開拓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通じて、生徒の進路に関する知識と進路実現への意欲を高め、キャリア教育の充実を図る。 ・個別の声掛けを通して、地域貢献につながる活動に参加する生徒を増やし、社会性と行動力を育む。 ・昨年度の進路講演会に加えて、大学教授等の外部講師による授業型講演会を行い、生徒の興味・関心の幅を広げる。 ・ICTの活用の幅を広げ、生徒が学力向上や進路選択に自ら積極的に取り組めるような機会を設ける。 	<p>探究活動に係る振り返り 講演会等の事後アンケート</p>	
<p>生徒指導 (規律・勤労・敬愛)</p>	<p>規範意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させる。出席者数、前年度より20名増を目指す。 ・いじめ発生件数ゼロを目指し、生徒に寄り添った支援、声掛け等により、生徒の変化に対応した指導を徹底する。 ・校内外におけるマナー向上として、授業やHR、講演会等で指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させ、実践させる。 ・一人一人を尊重し認め合う態度、人を思いやる心豊かな生徒を育成する。 	<p>いじめアンケート 学校生活アンケート 家庭用チェックリスト</p>	
	<p>部活動・生徒会活動の 活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校是である文武両道の実践を図る。 ・部活動では昨年の実績を上回る目標として、九州大会5部、全国大会3部の出場を目標とする。 ・生徒会活動では、生徒の主体性を重視し、生徒一人一人が行事を通して、成功体験を重ねていくことで、失敗を恐れず挑戦する態度を育成する。 	<p>部活動単位でのミーティングや 保護者会の実施 学校行事に関するアンケート実施</p>	
	<p>生徒の状況に即した 指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を的確に把握し、必要に応じて迅速に家庭や関係機関と連携して支援や指導を学校が一体となり組織的に取り組む。 ・学校いじめ防止基本方針に基づいて年間を通して計画通りに取り組む。いじめ防止対策委員会にて評価及び課題の検討を実施する。 ・人権教育、道徳教育の一層の充実を同和推進委員会と連携し、組織的に取り組み相手の立場となり考え、行動する生徒を育成する。 ・生徒の個性を尊重し、一人一人に即した個別の支援に取り組む。三年間充実した学校生活を送れるような環境づくりに努める。 	<p>いじめアンケート 学校生活アンケート 家庭用チェックリスト</p>	
<p>組織体制</p>	<p>学びあい支えあう、向上心を持った 教員集団の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般について、教員間の協働を推進することで、教員集団の組織力の向上を図る。 ・会議や研修会を通して、生徒情報の共有を密にすることで、個々の生徒に応じた組織的で適切な指導を行う。 ・教員全体が常にカリキュラムマネジメントを意識し、学校目標の実現に向け、検証、評価、見直しを行う。 ・業務の見直しやICTの利活用により働き方改革を推進し、生徒の指導に全力で取り組める職場環境づくりに努める。 	<p>校務運営委員対象のアンケート</p>	